

二宮金次郎

にのみやきんじろう

作詞・作曲者不詳

♩ = 100
mf

1. しばかりなわな いわらじをつくり おーやの
2. ほねみをおしませ しごとはげり よーなべ

mp

てをすけ おととをせわし きょうだい なかよく
すまして てならい どくしよ せわしい なかにも

f

こうつくす てほんはにの
たゆまずまなぶ てほんはにの

み や き ん じ ろ う
み や き き ん じ ろ う



報徳二宮神社(小田原)二宮金次郎像

- 1 柴刈り 繩ない草鞋をつくり
親の手を助け弟を世話し
兄弟仲よく孝行つくす
手本は二宮金次郎
 - 2 骨身を惜まず仕事をはげみ
夜なべ 済まして 手習読書
せわしい中にも 撓まず 学ぶ
手本は二宮金次郎
 - 3 家業大事に費をはぶき
少しの物をも粗末にせず
遂には身を立て人をすすくう
手本は二宮金次郎
-
-

明治44年6月 「尋常小学校唱歌(2)」

- 柴刈り—柴はたき付けに使う枯れた小枝で、山で柴を採取することを柴刈りという。金次郎像が背中に背負っているのが、薪(まき)ではなく、薪(たきぎ)=焚き木、柴である。
- 夜なべ—夜、家の土間などで繩ない、わらじ作りなどの作業をすること。
- 撓まず—心をゆるめないで
- 費えをはぶく—無駄な出費をしない、節約する。